2019年度NPO法人とちぎ協働デザインリーグ事業報告

2019年4月1日～2020年3月31日

Ⅰ.とちぎボランティアNPOセンター管理運営業務（栃木県県民文化課）

「 とちぎボランティアNPOセンター管理運営業務委託仕様書」に基づき、「 NPO法人とちぎ協働デザインリーグ」のセンター管理運営業務委託12年間の経験及び実績を生かし、社会貢献活動促進に向けた各種支援策を展開した。

1．2019年度の重点テーマ

現　状	重点テーマ
社会貢献活動団体が、活動を発展・拡大していくためには、組織の運営から会計等、トータルでマネジメントできる人材が必要。	①組織マネジメント・人材育成
市町センターの職員の入れ替わり等に伴い、センター同士の関わりや交流の場をつくりながら、相談等の基本的能力を身につけられる研修が必要となる。また、事業運営のノウハウにかかる研修等、機能向上につながる支援が必要。	②市町センターの機能向上支援
組織基盤のしっかりしたNPO、企業、教育機関等が、積極的に協働に取組み、地域貢献の質を高め、よりよいサービス提供ができるよう、各分野の支援団体をつなぎ、支援力を高めるためのネットワークの構築が必要。	③協働に向けたネットワーク構築

2.事業内容

（1）組織マネジメント・人材育成

（1）組織マネジメント・人材育成

①-1 NPOマネジメント連続講座（会計基礎講座）

目的	NPO等の団体は、専任の会計担当者を置くことが難しく兼任等で対応していることが多い。また職員の入れ替わりも多く、そのノウハウを引き継ぐことが難しくなっている。本講座は、特に新たに担当になった者を対象に会計の基礎的な部分を学ぶ機会とする。	内容	①会計の基礎、簿記から学ぶ 1　NPO会計の基礎 2　会計処理の方法 3　日常業務で行うこと 4　演習 ②事業費と管理費 1　NPOの財源について 2　事業費と管理費の分け方 3　人件費とその他経費の分け方 4　NPO法人が作成する会計書類等 5　消費税に関して（増税に関わること）
実施概要	・日　時：①令和元年9月20日（金）10：00～12：00 ②　　9月27日（金）10：00～12：00 ・会　場：ぽ・ぽ・ら ・講　師：とちぎボランティアNPOセンター　ぽ・ぽ・ら コーディネートリーダー　町田　英俊 ・対　象：NPO等で、会計担当初任者 ・参加者：延べ49名 ※各回終了後に続けて個別相談会を開催することで個別の相談にも対応した。		 質疑の様子
成果	・スタッフが講師を務めることにより、スタッフのスキルアップにつながった。 ・スタッフが質疑への対応を行うことにより、その後の相談対応に繋がり、解決までの伴走支援が可能となった。	課題	・毎年継続している事業だが、今後も一定のニーズが見込まれる。 ・会計に不安を覚えている担当者が多いことから、今後、地方開催等も課題と考えている。

（1）組織マネジメント・人材育成

①-2 NPOマネジメント連続講座（NPOリーダー論）

目的	社会貢献活動の担い手として、NPO等の活躍が期待されているが、現状では活動のマンネリ化や後継者不足により、自助だけでは組織の成長が困難な状況にある。一方、県内で活躍するNPOには、トップランナーとなり、成長を遂げている団体もある。団体の持続的成長を目指す活動者（次世代リーダーを含む）に向け、リーダー（マネージャー）の役割を認識してもらい、リーダー層の組織内マネジメント力向上につなげる。	内容	1　NPOへの期待 社会課題解決の担い手として期待に応えられているか？ 2　マネジメントとは 使命の実現に向けて、組織の資源を管理し、最大限の効果をあげ、社会変革と市民社会創造をもたらすこと 3　NPOのリーダー 組織のミッションとビジョン（将来像）のもとに、多様性と寛容性をもって人財を育てることができる人 具体的な事業計画を提示し、その事業を実施したことによる成果を説明できる人 4　ワークショップ ミッション・ビジョン・事業計画を伝えよう 安藤氏の講義
実施概要	・日　時：令和2年1月17日（金）13：30～15：30 ・会　場：ぽ・ぽ・ら ・講　師：認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事長　安藤　正知氏 ・参加者：11名		
成果	・具体的事例が示されたことで、リーダーの役割の理解が深まった。（「満足した」・「期待以上だった」：87.5%） ・ファシリテーター型のリーダーの重要性が伝わった。	課題	・これからのリーダー層の参加はあったが、現在活動が停滞しているリーダー層へのアプローチが課題。 ・セミナー形式ではなくアウトリーチ型の支援策も検討したい。

（1）組織マネジメント・人材育成

①-3 NPOマネジメント連続講座（NPOの労務基礎講座）

目的	現在、国においては、残業時間の上限規制や年次有給休暇の消化義務などの「働き方改革」が推進されており、NPOにおいても働き方改革は喫緊の課題となっている。そこで、働き方改革、有給義務化を含む、労務についての基礎的な講座を実施する。	内容	○講座内容 ・「働き方改革」とは：女性・高齢者等の活躍推進、企業・小規模事業者の人手不足解消 ・労働基準法：労働時間、休日・休日労働、割増賃金、36協定、限度時間、時間外労働の上限規制、労働時間の把握義務 ・年5日の年次有給休暇の着実な取得 ・同一労働同一賃金 社会保険労務士による講義
実施概要	・日　時：令和2年1月29日（水）13：30～15：00 ・会　場：ぽ・ぽ・ら ・主　催：とちぎボランティアNPOセンター、栃木働き方改革推進支援センター ・テーマ：基本から学ぶ働き方改革 ・講　師：栃木働き方改革推進支援センター アドバイザー/社会保険労務士　樽　陽子氏 ・参加者：16名		
成果	・働き方改革や労務の基礎知識について、分かりやすく説明いただき、参加者の労務について理解が深まった。 ・マネジメント連続講座に位置付けたことで、他の講座と併せて受講する効果が見られた。	課題	・アンケート結果では、「NPOの事例などを交える」、「複数回の開催を望む」などの声もあった。現場の事例の把握や講座の複数回開催が必要である。

（1）組織マネジメント・人材育成

①-4　NPOマネジメント連続講座（ファンドレイジング）

目的	NPOにおいて、資金調達は永遠の課題である。それぞれの団体が、目的や活動に沿う資金集めを行い、また賛同者を増やしていくためのノウハウを学ぶ。なお、NPO法人の寄付等の先には「認定制度」もあるため、2部構成とし、栃木県主催の「認定取得応援講座」を同日開催する。	内容	第1部 1　ワークショップ 「応援したい」について、見出した。 2　ファンドレイジングについて 3　ファンドレイジングの現状 47.1%のNPO法人が寄付を受け取っていない。 4　ドナージャニーマップ ステークフォルダーに関わりを深めてもらえる方法を整理 5　ワークショップ 募金箱を商店に置いてもらおう 池田氏の講義
実施概要	第1部 ・日　時：令和2年2月6日（木）13：30～15：00 ・会　場：ぽ・ぽ・ら ・講　師：認定ファンドレイザー　池田　秀昭氏 ・参加者：17名 第2部 ・日　時：令和2年2月6日（木）15：00～16：30 ・会　場：ぽ・ぽ・ら ・講　師：認定NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 副代表理事　関口　宏聡氏 ・参加者：17名		
成果	・資金調達活動には、戦略的に取り組む必要があり、また、NPO法人が寄付者にメリットを打ち出していくためには、認定制度の理解が必要不可欠である。県事業と同日開催することで、リーダー層に伝えられたことは、効果が大きかった。	課題	・手法を学ぶだけではなく、実際に実行できたかどうかの伴走支援を実施したい。良い事例となれば、事例紹介をできるようなサイクルを生み出したい。

（1）組織マネジメント・人材育成

①-5　NPOマネジメント連続講座（総会準備）

目的	年度報告を行う機会である「総会」と、その際に使用される「事業報告書」。これらは、ひな形に則った形で使用されている。団体からはどのように記載していいのか悩む声が聞こえてくるため、これらの疑問の解決を目指す。	内容	1　法人の年度末手続きについて 2　総会について 　開催ルール等 3　事業報告書について 　行政のチェックポイント 4　貸借対照表の公告について 5　総会準備の実務 6　総会当日のチェックポイント 7　総会終了後の諸手続き 8　総会のひと工夫 参加者からの質問に答える講師
実施概要	・日　時：令和2年2月26日（水）13：30～15：30 ・会　場：ぽ・ぽ・ら ・講　師：栃木県県民生活部県民文化課県民協働推進室 　主任　川上　貴義　氏 　とちぎボランティアNPOセンター　ぽ・ぽ・ら 　コーディネートリーダー　町田　英俊 ・参加者：16名		
成果	・実際に総会・事業報告時に使う資料を基に、具体的に説明することで理解が深まった。 ・総会＝「会員が集うファンミーティング」として、工夫するメリットを打ち出すことができた。	課題	・分かりやすいチェック表などの教材が必要。

（1）組織マネジメント・人材育成

②-1　労務ミニセミナー＆個別相談会（ぽ・ぽ・ら）

目的	NPOには、常勤職員、非常勤職員、有償ボランティア、無償ボランティアなど、様々な人材が関わっている。これらの人材とNPOとの労務関係においては、雇用形態に応じた適切な労務管理、またはボランティアとしての管理を行う必要がある。そこで、労務事務のポイントについて学ぶとともに、労務に関する疑問や悩みについての相談に応じる場を設け、NPOの労務管理の強化を図る。	内容	○第３回：令和元年12月3日（火）13:30～16:15 ・テーマ：正しく知ろう「３６協定」 ○第４回：令和2年2月9日（日）13:30～16:15 ・テーマ：押さえておきたい労働時間の適正な把握 ○第５回：令和2年2月27日（木）13:30～16:15 ・テーマ：ルールがあります「賃金の支払い」 ○第６回：令和2年3月12日（木）13:30～16:15 ・テーマ：法人のルールブックです「就業規則」 社会保険労務士によるミニセミナー
内容	・主　催：とちぎボランティアNPOセンター、 栃木働き方改革推進支援センター ・講　師：社会保険労務士　谷田部　浩史氏 ・会　場：ぽ・ぽ・ら ・実施回数：令和元年10月～令和2年3月、全6回 ・参加者：延べ9団体9名 ○第１回：令和元年10月31日（木）13:30～16:15 ・テーマ：知っていますか？「雇用保険・社会保険の加入資格や給付」 ○第２回：令和元年11月16日（土）13:30～16:15 ・テーマ：きちんと説明できますか？「労働条件」		
成果	・栃木働き方改革推進支援センターとの共催による初の試みで、多様な内容を企画・実施することが出来た。また、今後の事業展開にもつながりが出来た。 ・個別相談では、限られた人員で多様な働き方がされているNPOの労務の課題を直に感じることが出来た。	課題	・ミニセミナー及び個別相談の時間が、予定より超過してしまった。セミナーには１時間程度必要であった。 ・労務の課題を抱える団体は数多く存在すると思われるが、ニーズを把握するためには、現場の声を直接聞きに行く必要がある。

（1）組織マネジメント・人材育成

②-2　地域での労務個別相談会（真岡市、那須塩原市）

目的	NPOには、常勤職員、非常勤職員、有償ボランティア、無償ボランティアなど、様々な人材が関わっている。これらの人材とNPOとの労務関係においては、雇用形態に応じた適切な労務管理、またはボランティアとしての管理を行う必要がある。そこで労務に関して、専門家からの助言を受ける個別相談会を地域に出向いて開催する。	内容	・相談内容：就業規則の見直し、時間外労働、アルバイトの有休、退職時期、安全衛生管理、雇用契約 **〇第2回個別相談会（那須塩原市）** ・日　時：令和2年1月16日（木）13:30～16:15 ・会　場：那須塩原市市民活動センター ・講　師：社会保険労務士　木村　真帆氏 ・参加者：3団体4名 ・相談内容：有休休暇、労働時間、業務手当 社労士による個別相談（真岡市）
内容	・主　催：とちぎボランティアNPOセンター、栃木働き方改革推進支援センター ・会　場：真岡市、那須塩原市 ・講　師：社会保険労務士 ・実施回数：令和元年11月、令和2年1月、全2回 ・参加者：延べ5団体7名 **〇第1回個別相談会（真岡市）** ・日　時：令和元年11月5日（火）13:30～16:15 ・会　場：真岡市市民活動推進センター ・講　師：社会保険労務士　西田　亨氏 ・参加者：2団体3名		
成果	・市町中間支援センターの協力を得て、団体に参加を打診していただき、相談機会を提供することが出来た。 ・真岡市では、会計相談会を平行して開催したため、1団体は会計と労務、両方の相談を受けることが出来た。	課題	・団体に打診した際、「何を相談したら良いか分からない」という声があったが、実際の相談では、時間を超過するほど多くの課題があった。ニーズを把握するため、アプローチ方法を工夫する必要がある。

（1）組織マネジメント・人材育成

③若者向け社会貢献活動参加促進イベント 「地域×未来」

目的	若者の社会貢献活動の参加促進のために、地域の中での社会貢献活動参加のきっかけづくりの場を提供し、「若者が地域の団体や中間支援センターを知ることが出来る」、「若者自らが自分でどのようなことができるか、気付きを得る」ことの2点を目的とする。	内容	1　キースピーチ（栃木県の若者の社会貢献活動参加促進事業参加者による活動報告）「Living Market」、「RUN伴小山エリア実行委員会」「人形劇団コッコ」参加者 2　団体発表：各団体による活動内容紹介 3　グループワーク 「活動団体に突撃取材！」：若者が団体に活動について聞き取りを行った。 4　シェアリング 「聞いてきた内容をシェアしよう」 5　個人ワーク 「なんでも聞いてみよう！」：個人で団体に聞き取りを実施した。
実施概要	・日　時：令和元年12月8日（日）13：00～16：00 ・会　場：壬生町保健福祉センター　会議室 ・主　催：栃木県県民文化課/ぽ・ぽ・ら 共　催：壬生町町民活動支援センター　みぶりん 協　力：みぶりん利用者協議会 ・参加者：45名/参加団体　8団体		 若者・団体ともに気づきを書き出してもらった
成果	・普段接点の少ない若者と活動団体の相互交流により、活動内容ややりがい等を把握するという目的が達成できた。 ・活動団体においては、「若者を温かく迎え入れ、壬生町を皆で盛り上げよう」という機運醸成ができた。 ・地域開催の効果として、市町センターへの事業運営ノウハウの移転ができた。	課題	・学校関係者との人脈に乏しかったため、参加者集めに苦労した。今後はそうした関係者との直接的な人脈作りを行う必要がある。 ・今回は初心者向けイベントであり、次回も壬生町で行う場合には、参加者が深く考え、アウトプット出来るような事業が求められる。 ・全てのノウハウを市町センターに移転しきれたわけではないので、今後も伴走支援が必要である。

（1）組織マネジメント・人材育成

④NPO、ボランティア活動及び地域づくり、協働等に係る県内外研修・先進事例調査

期日	研修名	主催
4月14日	古川機械金属（株）足尾事業所・足尾銅山視察研修～地域との共存から学ぶ～	一般社団法人栃木県経営者協会
4月19日	非営利組織評価併走支援集合研修	一般社団法人非営利組織評価センター
4月25日	関東ICT推進NPO連絡協議会活動報告会及び講演会	関東ICT推進NPO連絡協議会
5月21日 22日	災害時の連携を考える全国フォーラム	JVOAD
5月28日	栃木県コミュニティ協会研修会	栃木県コミュニティ協会
6月4日	生活学校全国大会こどもの居場所	生活学校
6月20日 21日	日本NPOセンター初任者研修	日本NPOセンター
6月30日	仙台市市民活動サポートセンター20周年	仙台市市民活動サポートセンター
7月12日	NPOと行政の対話フォーラム	日本NPOセンター
9月28日	地域協働推進員研修（3回）	栃木県県民文化課

期日	研修名	主催
10月5日 6日	ボランティアコーディネーション研修	日本ボランティアコーディネーター協会
10月24日	NPOマネジメントゼミ講演会	宇都宮まちづくり市民工房
11月7日	協働推進大会	栃木県県民文化課
11月9日	地域連携コーディネーター研究協議会	宇都宮大学
11月21日 12月5日	NPO向け企画力向上セミナー	栃木県県民文化課
11月29日	コミュニティカレッジ（4回） 12/13、1/10、2/14	栃木県コミュニティ協会
1月8日	地域共生社会シンポジウム	栃木県、栃木県社会福祉協議会
1月21日	ボランティアコーディネーションセミナー	栃木県社会福祉協議会
1月24日	栃木県教育研究発表大会	栃木県教育委員会
2月3日	ボランティア活動リーダー養成研修会（企業編） 社員の人材育成を図る 社会貢献活動プログラムの開発	栃木県社会福祉協議会
2月22日 23日	全国ボランティアコーディネーター研究集会2020	日本ボランティアコーディネーター協会
3月5日	「社会課題解決×ムーブメント」を導くリーダーシップ！システム思考	NPOサポートセンター

（2）市町センターの機能向上支援

（2）市町センターの機能向上支援

①市町センターへのアウトリーチ支援

目的	市町センターが増加する中、県域センターとしてノウハウを移転し、市町センターの機能強化を支援する。 また、今後設置が予定される市町に対して、積極的なアウトリーチ支援を行う。	内容	1　中間支援センターネットワーク会議 市町センター、県社協、県総合教育センター、Vネット、県、ぽ・ぽ・らによる意見交換。 新設予定のさくら市もオブザーバー参加。 2　未設置市町・新設市町を含む市町センターへの支援・連携 さくら市からの新設に係る相談に、随時対応した。 3　共同実施による事業ノウハウの移転 ①広報研修を共同実施(くらら・コラボーレもおか) ②協働ミーティングの共同実施(日光市民活動センター) ③若者事業の共同実施(壬生町町民活動支援センター　みぶりん) 4　県内外中間支援センターの情報収集 〇NPOと行政との対話フォーラム(主催：日本NPOセンター) ・内容：社会的な価値を生み出す協働とは？ 山間地域における社会的価値を生み出す協働 〇藤沢市市民活動センター現地視察
実施概要	1　中間支援センターネットワーク会議 ・日　時：令和元年5月31日（金）15：00～17：00 ・会　場：ぽ・ぽ・ら ・参加者：23名 2　未設置市町・新設市町を含む市町センターへの支援・連携 3　共同実施による事業ノウハウの移転 4　県内外中間支援センターの情報収集 〇NPOと行政との対話フォーラム(主催：日本NPOセンター) ・日　時：令和元年7月12日(金) 〇藤沢市市民活動センター現地視察 ・日　時：令和元年12月11日（水）		
成果	・センター設置前から、さくら市と関係性を築けたことは、大きな成果となった。 ・藤沢市市民活動センターのスタッフの働き方や、組織診断ツールは大いに参考になった。	課題	・ネットワーク会議に参加が難しいセンターとの意見交換やアプローチ（アウトリーチ）が必要。

（2）市町センターの機能向上支援

②市町センター運営組織のスタッフ研修

目的	県域センターとして、市町センタースタッフの資質向上のための研修等を実施し、地域の課題解決やサービス向上、センター間の連携強化に資する。	
実施概要	1　新人研修 ・日時：令和元年7月18日（木）10：00～15：00 ・会場：佐野市民活動センターここねっと ・参加数：12名 公設民営の佐野市市民活動センターと公設公営の下野市生涯学習情報センター、野木町ボランティアセンターきらり館、総合教育センター、民営公営がバランスよく参加となった。 2　意見交換会 「新人研修」にて、相談対応についての事例検討を実施。	3　中堅スタッフのスキルアップ「広報力アップ研修」 ・主催：ぽ・ぽ・ら ・共催：真岡市市民活動推進センター 「コラボーレもおか」 とちぎ市民活動推進センター「くらら」 ・日時：令和元年9月11日（水）13：30～16：40 ・会場：とちぎ市民活動推進センター　くらら ・参加数：17名 4　意見交換会 「中間支援センターネットワーク会議」開催後に、NPO等の広報活動における課題の意見交換を実施。
内容	市町センターの事業実施に係る研修等の実施 「センター職員として知っておきたいこと」、「相談対応のためのワークショップ」、「施設見学」	1　チラシデザインなどの市民活動分野における広報のポイント、2．手描きイラストの手法、3．チラシ診断を通じた、良いデザインの共通点探し。
成果	・総合教育センターや、公設公営、公設民営センターが集まり、立場の違いを共有しながらボランティア・市民活動を支援する方策を共有することができた。 ・相談事例の検討では、互いのセンターの資源を上手に活用しながら対応することを確認しあえた。	・初めて、「ぽぽら」、「コラボーレ」、「くらら」の各組織の人材を活用し三者合同で研修を実施 ・中間支援センター人材自らが講師となったため、その後のセンター間の相互扶助にもつながった。 ・センタースタッフ自らが「広報物を作成する際の注意点」を実践的に理解できるようになった。
課題	・今後は中堅層とも交流し学び合えるスタッフ研修が必要。	・複数回に分けた事業実施が求められる。

（3）協働に向けたネットワーク構築

（3）協働に向けたネットワーク構築

①とちぎ協働推進研究会（拡大）の開催

目的	・ボランティア、NPO、地域団体、各種団体、企業、教育機関、市町センター、行政等、多様な主体が一堂に会し、地域課題の解決及び社会的価値の創出に向けた、研修、視察、意見交換・情報交換等を実施する。以て、地域づくりの新たな視点を見いだす。 **・今年度のテーマ 「災害」** 地球温暖化による異常気象の影響から、これまでにない自然災害に見舞われている現状をふまえ、災害時の支援体制はもとより、日頃からの対策等についても、つながりをもって考えておく機会を創出する。また、連携協働による対応が、地域にとって重要な役割を果たすことを多様なセクター間で共有する。
実施概要	9月：関連事業、「災害時ボランティア活動支援体制づくり検討会」への参加 10月：「がんばろう栃木！情報共有会議」への参加 11月：研究会メンバーへの緊急連絡 「台風19号被害に係る支援協力について（依頼）」 12月：経済同友会の協力により、「企業による台風19号被災者支援活動調査」の実施 1～2月：上記調査結果を「がんばろう栃木！情報共有会議」に提供 3月：「災害」をテーマとした研究会報告書を作成し、「栃木県災害ボランティア活動支援方針」とともに配布

内容	・10月に東日本台風が発生したため、今年度計画を変更し、実態に即した活動を実施した。 ・様々なボランティア活動について、情報共有会議でも話し合われたが、全般に地元企業がどの程度被災したか、どんな支援活動をしてきたかといった情報はあまり得られてなかった。そこで、研究会の構成団体である栃木県経済同友会の協力を得て、実態調査を実施した。 **調査項目** 1．どのような支援活動をしたか 2．支援活動に至った経緯 3．支援活動での他団体との連携 4．支援活動に取り組んでの課題（今とこれから） 5．今後、どのような団体と連携協力したいか
成果	・地元企業33社から、被災地（者）支援に関する調査の回答を得ることができた。 ・調査の集計を「がんばろう栃木！情報共有会議」に提供し、地元企業の現状把握に寄与した。 ・回答企業が、「支援活動に関する基本的な知識や情報」を得たいと望んでいることが数値に出たので、今後のネットワークづくりに生かせる。
課題	・企業の地域課題への意識の醸成を図り、協働活動へつなげるためのきっかけの場づくりが必要。 ・同時に企業の巻き込み方の工夫や仕掛けも必要。

（3）協働に向けたネットワーク構築

②災害支援ネットワーク構築に関わる調査研究等

目的	本県における行政・社会福祉協議会・中間支援センター等の「三者連携」について検討を進める。	内容	1　災害時の連携を考える全国フォーラムへの参加者の意見交換会の実施 ・参加組織の職員による各分科会の情報等の共有を行い、意見交換を行った。 2　災害時ボランティア活動支援体制づくり検討会 ・災害時に各組織がどのようなタイムラインで行動するのかを可視化した。 ・災害時に機能する連絡会議の設置案の検討 ・令和元年東日本台風に対応するために立ち上げた情報共有会議の振りかえり ・「栃木県災害ボランティア活動支援方針（案）」のとりまとめ
実施概要	1　災害時の連携を考える全国フォーラムへの参加者の意見交換会の実施 日　時：令和元年6月5日(水)15：00～18：00 場　所：ぽ・ぽ・ら 参加者：栃木県・栃木県社会福祉協議会・鹿沼市社会福祉協議会・ぽ・ぽ・ら 2　災害時ボランティア活動支援体制づくり検討会 日　時：5月31日（金）・9月2日（月）12月18日（水） 参加者：栃木県社会福祉協議会、日本赤十字社栃木県支部、栃木県共同募金会、とちぎボランティアネットワーク、栃木県危機管理課、栃木県保健福祉課、栃木県県民文化課、ぽ・ぽ・ら		
成果	・災害時の情報共有に係る栃木県の方針をまとめることに貢献した。 ・災害時ボランティア活動支援体制検討会を行っていたことにより、後述の「令和元年東日本台風」への対応がスムーズに行えた	課題	・発災時には、マニュアルどおりにいかないことが多い。ボランティア、NPO、市民活動センターも県の方針を柔軟に運用できるのかが今後の課題である。

（3）協働に向けたネットワーク構築

②災害支援ネットワーク構築に関わる調査研究等（令和元年東日本台風対応）

目的	令和元年東日本台風被害への対応	内容	2 「がんばろう栃木！情報共有会議」の開催 ・栃木県における支援組織・支援者同士がニーズやシーズを共有し、連携や情報共有による効果的な支援を行った。 ※2回目まで、栃木県主催。3回目以降から「ぽ・ぽ・ら」も事務局共催として実施。 3 栃木県社会福祉協議会への職員派遣 ・県社協職員の事務負担軽減を目的に、ぽ・ぽ・ら職員の派遣を行った。 4 令和元年東日本台風に係るボランティア情報のWEB発信 ・「がんばろう栃木！情報共有会議」HPを栃木県、栃木県社協と共同開設し、被災者向けの支援制度や、災害ボランティアセンターの開設状況等のボランティア活動に資する情報提供を行った。（11月12日開設） ・支援者向け「Facebookグループ」を宇都宮大学、とちぎボランティアネットワークと共同運用し、支援情報の共有を図った。
実施概要	1 ぽ・ぽ・ら休館対応：10月12日（終日）13日（AM） 2 「がんばろう栃木！情報共有会議」の開催 日 時：10月16日・10月23日・10月30日・11月13日11月22日・2月27日 3 栃木県社会福祉協議会への職員派遣 日 時：10月17日～10月31日（延べ11日間） 4 ボランティア活動支援依頼 県内全NPO法人・登録団体・とちぎ協働推進研究会へボランティア活動への支援協力の依頼文を発送 5 令和元年東日本台風に係るボランティア情報のWEB発信ホームページ、Facebookグループの立ち上げ		
成果	・これまでにない取組みとして、県域での「情報共有会議」を開催できたことが最大の成果である。	課題	・市町センターや、市町社協に対して人的支援が行える仕組みが必要である。 ・タイムリーな情報収集と発信ができる体制の構築(BCP計画策定)

（3）協働に向けたネットワーク構築

③協働ミーティングの開催

目的

・地域課題の解決及び社会的価値の創出に向け、協働についての理解促進を図る。
・地域にある多様な主体との意見交換・交流から、課題解決の可能性を見い出す。

実施概要

NIKKO報徳 協働ミーティング
～地元で見つける未来のパートナー～

・日　時：令和元年11月22日（金）19:00～21:00
・会　場：日光市民活動支援センター　報徳ホール
・対　象：日光を愛する企業、市民団体、学校関係、行政、地域づくりに関心のある方等　　40名程度
・主　催：とちぎボランティアNPOセンター、日光市民活動支援センター、スマイル日光プロジェクト
※3者共同実施にあたり、数回の打合せをもって、より地域のニーズに即した効果的な事業を目指した。
・後　援：日光市教育委員会、日光市商工会議所、日光青年会議所
・参加者　45名

内容

1　基調講話
「今、なぜ協働か？」
スマイル日光プロジェクト会長　小栗　卓氏
2　事例紹介
「協働がもたらすもの」
ぽ・ぽ・ら　シニアコーディネーター　小針　協子
3　意見交換・交流タイム
「地元で見つける未来のパートナー」
ファシリテーター　　日光市民活動支援センター
センター長　吉田　貴光氏
4　ふりかえりとまとめ

基調講話とテーマ別意見交換「環境、こども、福祉」

成果

・NPO、企業、行政等が一堂に会し、それぞれの持つリソースを確認、共有し合うことができた。
・ノウハウ移転により、日光センターにて、地域課題解決に向けて取り組んでいくきっかけのひとつとなった。
・アウトリーチの結果、地域情報を得ることができた。

課題

・地域課題に対し、主体的に取り組もうという意識の啓発が弱かった。また、1回の開催では、具体的な協働プロジェクトの芽出しまでには到達しなかった。
・次年度は、地元主体複数回の企画をもって、これらの課題を解決したいとのこと。

（４）相談・コーディネート

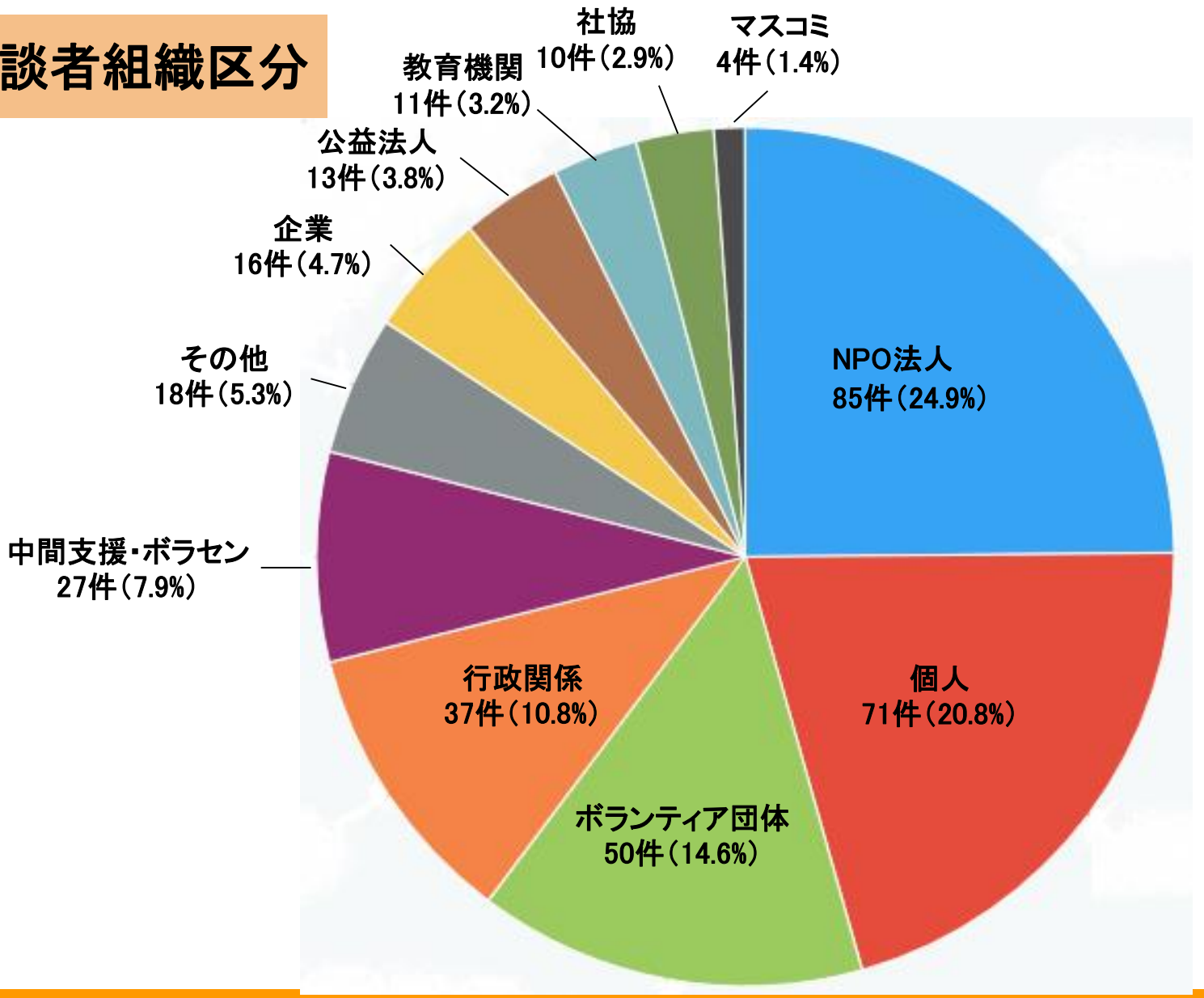
（4）相談・コーディネート

目的	運営スタッフ・専門家による相談・コーディネートの充実を図り、相談内容に応じて個人及び団体の社会貢献活動意欲の向上、活動の活性化、協働事業の提案等、相談者の資質向上に寄与する支援等を行う。	内容	(2)会計税務個別相談会 日　時：令和元年11月５日（火）13:30～16：30 会　場：真岡市市民活動推進センター コラボーレもおか 参加団体：２団体 内　容：真岡市において、関東税理士会協力のもと会計税務に関する相談会を開催した。相談を必要とする団体は、同日社会保険労務士への相談も実施した。 税理士による個別相談（真岡市）
内容	１　運営スタッフによる相談・コーディネート（随時） 4月～5月「事業報告に関する」相談強化月間 8月～9月「消費税についての」相談強化月間 3月～5月「総会準備・事業報告書等」相談月間 ・相談対応件数　（ 342件　） ２　専門家相談会の開催 (1)会計税務・労務専門家相談会 日　時：令和 元年6月 26日（水）13：30～16：30 会　場：ぽ・ぽ・ら 参加団体：２団体 内　容：昨年までの会計税務相談会に社労士も同席し会計から労務まで対応できる機会とした。		
成果	会計税務相談に社会保険労務士を同席願い、団体の相談に対応した。第2回はコラボーレもおかに出向いて開催し、多忙を極める団体の移動時間を減らし、相談対応ができた。また、県南税理士会に関係をつなげた。	課題	相談を必要とする団体への開催情報の周知。各回3団体を予定したが、実施が2団体に留まった。十分な周知の期間と方法を見直し、中間支援センターと協力のうえ健全な団体運営の応援に努めたい。

（4）相談・コーディネート

相談者組織区分

N＝342



(5)情報収集・提供

（5）情報収集・提供

目的

他県の先進事例、全国レベルの取組等を収集し、情報誌やホームページによる発信を行う。
メルマガ及びブログやSNSを活用し、社会貢献活動のタイムリーかつ有益な情報を提供する。

実施概要

1　センター情報誌の編集発行（年2回、各3,000部）
・夏号　令和元年8月発行　特集：子ども食堂
・春号　令和2年3月発行　特集：令和元年東日本台風被害とその対応

2　ぽぽらホームページの改修
令和元年10月1日付けオープン
「初めての方へ」「NPOの方へ」「企業の方へ」等のカテゴリー分けを行うとともに、モバイルにも対応する見やすいホームページに改修した。

3　ホームページ・SNSの充実（ブログ、フェイスブック等活用）

内容

	令和元年度 4月～3月	前年度	比較
HP（閲覧数）	24,097	12,204	97%増
ブログ（閲覧数）	83,874	52,061	61%増
ブログ（投稿数）	61	30	103%増
Facebook（閲覧数）	21,096	31,556	33%減

4　メールマガジンの編集発行（月2回発行）

	令和元年度 3月末	前年度 3月末	比較
登録者数	1,347	1,299	4%増

5　イベント等への参加による広報・宣伝活動
・「県民の日」への参加（令和元年6月15日）
・シルバー大学校マッチング授業（令和元年9月3～5日）
・県庁1階ロビー展示コーナー、協働推進大会等（令和元年11月7日）に出展、普及啓発を図った。

6　マスコミへの働きかけ
プレスリリースのひな型を作成し、マネジメント連続講座のPRを実施した。

(6)施設管理

(6)施設管理

目的

来館者が、安心安全に施設設備を利用できるように努め、社会貢献活動の推進に寄与する。

実施概要

①安全管理及び省エネ化
②施設・機器・物品等の管理
③利用団体の登録、各種利用受付、メールボックス

内容

・来館者数　19,150名（前年比+222）
・研修室利用者数　5,191名（前年比−106）
・研修室利用件数　696件（前年比−40）
・作業室（印刷機）利用件数　116件（前年比−40）
・パソコン利用件数　61件（前年比+35）
・センター利用登録団体　411団体（前年比+11）
・メールボックス利用登録数：　26件（前年比−1）
・ロッカー利用登録数　40件（前年比−1）

項目	令和元年度 4月～3月	前年度 4月～3月	比較
来館者数	19,150	18,928	1%贈
研修室利用者数	5,191	5,297	2%減
作業室利用者数	116	156	26%減

内容

・研修室、貸出備品、ネットワーク機器管理
・館内掲示物管理（広報、お知らせ、注意喚起等）

・ロッカーの管理、施設利用のサービス提供
・利用者の受付、対応、研修室、印刷機器等の利用案内(随時)
・メールボックス、ロッカー等の利用管理　（随時）
・メールボックス、ロッカー等の登録更新　（6月）
・利用団体の情報登録、変更等の管理　（随時）

〇東日本台風）に伴う臨時休館対応：10月12日終日、13日午前（再掲）
・災害情報に関する掲示を行った。

〇新型コロナウイルス感染症予防のため、新規貸館停止対応　3月5日から3月24日まで
・新型コロナウイルス感染症予防に関する掲示を行った。

課題

・研修室・作業室利用者の活動内容（チラシの印刷を含む）について、チェック体制を強化する必要がある。

（7）その他

（7）その他

①寄付文化醸成のための活動への協力（とちぎコミュニティ基金等）

目的

寄附は、いわば「金銭等によるボランティア」であり、直接ボランティア活動に関われない場合でも、寄附先の団体の社会貢献活動を通して、自らの意志を社会に反映させる手段となる。寄附された金銭等は貴重な活動資金となることから、寄附を「文化」として定着させ、社会貢献活動を県民全体で支える機運を醸成する。

内容

1　募金箱の設置及び寄附
- 台風15号被害支援金(中央共同募金会)　2,567円
- 台風19号被害義援金（栃木県共同募金会）7,840円
- 臨時休校中の子どもと家族を支えよう支援金（中央共同募金会）募集中
- とちぎ国体の気運上昇のための募金箱（H30～）

自然災害や感染症、国体等、様々な募金箱

成果
- 自然災害等が多く発生し、様々な場所で募金が実施され、寄附の意識は高まったと思われる。
- とちぎコミュニティ基金助成は、若者の意欲向上、活動団体の支援に大きく貢献している。

内容

2　とちぎコミュニティ基金事業への協力

(1) たかはら子ども未来基金
- ①審査会：令和元年7月12日（金）15:30～17:30
  - ・会　場：とちぎボランティアネットワーク
  - ・審査員の協議により、学生5名を選考した。
- ②贈呈式：令和元年8月10日（土）9:30～12:00
  - ・会　場：ぽ・ぽ・ら
  - ・受入れ団体紹介、助成金の贈呈、講評、ワークショップ、団体と学生の交流が実施された。
- ③報告会：令和2年3月14日（土）14:40～16:40
  - ・会　場：宇都宮大学陽東キャンパス
  - ・インターン生の自己紹介、学生と団体からの活動報告（4団体、学生5名）、インターン全体での活動報告（交流会、情報紙の作成発行）、一問一答、全体講評が行われた。

(2) 花王・ハートポケット倶楽部地域助成
- ・審査会：令和元年12月5日（木）13:00～15:00
- ・会　場：ぽ・ぽ・ら　・審査員：7名
- ・審査員の協議により、助成6団体を選考した。

※新型コロナウィルス感染拡大により贈呈式は中止。

課題
- 県民意識は、寄附文化の醸成という段階までには至っていないと思われる。
- とちぎコミュニティ基金事業は、審査基準や選考方法について協議する必要がある。

（7）その他

②-1 他団体、他部局との連携強化事業（シルバー大学校）

目的	多様な協働を推進するため、他団体や他部局との横の連携を強化する。	内容	学生と地域の団体との出会いの場として開催されるマッチング授業のPRに協力した。 ・3校にぽ・ぽ・らブースを出展し、スタッフ2名が学生と交流し、ボランティア募集やぽ・ぽ・ら事業の紹介等を行った。 ・出展団体向けに情報収集・発信拠点として、「ぽ・ぽ・ら」を活用してもらうようPRした。 シルバー大学校での授業風景
実施概要	1　県シルバー大学校マッチング授業への出展 ・日　時：令和元年9月3日（火） 会　場：シルバー大学校中央校 参加人数 250名 ・日　時：令和元年9月3日（水） 会　場：シルバー大学校北校 参加人数　80名 ・日　時：令和元年9月5日（木） 会　場：シルバー大学校南校 参加人数 110名		
成果	・シルバー層が参加しやすいボランティアメニューを紹介できた。 ・普段は生涯学習活動等を行っている学生に向け、市民活動参加への意識醸成が出来た。 ・後日、「いちご編みワークショップ」に5名が参加した。 ・後日、フードバンクボランティアに1名が参加した。 ・情報収集・発信拠点としての「ぽ・ぽ・ら」について、理解が進んだ。	課題	・学生の興味範囲が生涯学習に留まっているため、今後も継続的に市民活動参加促進の後押しが必要。 ・「相手に寄り添うボランティア」についての理解が不足している。 ・受入れ団体にはシルバー層に合わせた対応が求められたが、主催者側にもきちんと、「ボランティア」について理解してもらえるよう、学生に働きかけることが必要である。

（7）その他

②-2 他団体、他部局との連携強化事業（国体）

目的

〇とちぎ国体・全国障害者スポーツ大会
いちご一会ボランティアプロジェクトの実施

2022年度に開催される「とちぎ国体・全国障害者スポーツ大会」に向けて、特産のいちごをモチーフにした「手編みのいちごクリーナー」を県民から広く募集し、大会開催時に来訪者に配布して、エコとおもてなしの心を持ち帰ってもらう。県民の社会貢献活動参加意欲の向上、県全体で大会を盛り上げる機運醸成に資する。

内容

1 いちご編みワークショップの実施 参加者：延べ56名

(1)ぽ・ぽ・らでの実施 10回
平成31年4月14日、26日、令和元年5月15日、6月28日、7月20日、8月28日、9月26日、11月24日、令和2年1月26日、2月12日

(2)地域での実施 2回
令和元年6月10日（那須塩原市）
令和元年11月15日（栃木市）

手編みのいちごクリーナー

成果

・いちごクリーナーの寄附数は目標の約6倍となった。
・寄附への協力は、社会貢献活動団体や介護支援施設、地域の自治会等、他団体での自主的な取組にも広がっている。

内容

2 いちごクリーナーの寄附募集
・目標数 500個→実績 2,909個
・主な協力団体：那須塩原市市民活動センター、とちぎ市民活動推進センター、日光市在宅介護オアシス支援施設あおぞら、栃木県シルバー大学校、栃木県女性団体連絡協議会、全国要約筆記問題研究会、中途失聴・難聴の会「とちの葉」ほか

ぽ・ぽ・らでのいちご編みワークショップ

※上記のほか、「いちご王国プロモーション」事業への協賛を行った。（令和2年1月15日～3月14日）

課題

・那須塩原市から、小学校でのいちご編みワーショップも打診されたが、授業時間内では完成しないため、実施できなかった。子どもが参加できる方法も工夫する必要がある。

（7）その他

③関係機関の委員等への就任

会議名	役職名	主催
宇都宮市民大学運営協議会	運営委員	宇都宮市教育委員会事務局 生涯学習課
栃木市助成事業”とちぎ夢ファーレ”審査会	審査委員	栃木市地域づくり推進課
小山市市民活動センター運営調整会議	副委員長	小山市役所　市民生活課
宇都宮大学地域デザイン科学部 地域課題専門委員会	委員	宇都宮市大学 地域デザイン科学部
栃木県社会福祉協議会 活動推進計画推進委員会	委員	栃木県社会福祉協議会
みんなでまちづくり会議	委員	宇都宮市 みんなでまちづくり課

（7）その他

④-1各種会議・研修等への協力・参加（職員派遣）

期日	派遣先	主催
4月12日	小山市市民活動センター運営調整会議	小山市役所
4月18日	宇都宮市民大学運営協議会	宇都宮市
4月25日	総務省ICT推進協議会総会	総務省
4月25日	市町NPO担当者会議 （ぽ・ぽ・ら事業の説明）	栃木県
6月25日	災害ボランティアネットワーク会議	栃木県社会福祉協議会
6月27日	小山市市民活動センター運営調整会議	小山市役所
7月5日	みやシニア活動センターネットワーク会議	宇都宮市
7月8日	関東EPOパートナーズミーティング （参加協力）	関東パートナーシップセンター
7月24日	栃木県社会貢献活動促進懇談会 （ぽ・ぽ・ら事業の説明）	栃木県

期日	派遣先	主催
9月3日 ～5日	シルバー大学マッチング事業　中央校、北校、（ボランティア紹介）	栃木県シルバー大学校
9月13日	NPO法人会計サポートに関する情報交換会	栃木県
9月28日	共生ビジョン4市町・協働のまちまつり （講評及び協働について）	小山市
11月29日	宇都宮市民大学運営協議会	宇都宮市
2月7日	とちぎ夢ファーレ一次審査会	栃木市
2月21日	みんなでまちづくり会議	宇都宮市
3月7日	とちぎ夢ファーレ二次審査会	栃木市
随時	災害時情報検討会・情報共有会議	栃木県
随時	とちぎコミュニティ基金　　運営団体	認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク

（7）その他

④-2各種会議・研修等への協力・参加（講師派遣）

期日	内　容	派遣先	参加者	講　師
令和元年 5月24日	氏家中学校　職業人講話 「職業人から聞く～宇宙一の授業～」	氏家中学校	54名	コーディネーター　　涌泉　香織
6月4日	県政出前講座協力　（下野市）	栃木県県民文化課	20名	県民文化課職員 コーディネートリーダー　町田　英俊
6月12日	宇都宮市緑化ボランティア養成講座 ボランティア活動を始めよう！	宇都宮市景観まちづくり課	25名	コーディネートリーダー　町田　英俊 コーディネーター　　涌泉　香織
8月22日	県政出前講座協力（シルバー大学中央校）	栃木県県民文化課	130名	県民文化課職員 コーディネートリーダー　町田　英俊
8月30日	下野市公民館ボランティア養成講座 ～響け！　ミュージックベル～	下野市南河内東公民館	14名	シニアコーディネーター　小針　協子 コーディネーター　　小松　玲子
9月28日	共生ビジョン　４市町・協働のまちまつり	小山市市民生活課	20名	シニアコーディネーター　小針　協子
12月10日	下野市ボランティア交流会 ～YOUがおDEコラボ～～	下野市生涯学習支援センター	20名	シニアコーディネーター　小針　協子
12年23月	河内地区地域連携教員等研修会 学校と地域の協働	河内教育事務所	150名	シニアコーディネーター　小針　協子

（7）その他

⑤その他、センターの基本コンセプト具象化に必要な業務

実施日時	内　容	依頼元	参加者
令和元年8月8日	インターン研修	栃木県経営者協会	2名
8月20日	インターン受入	栃木県県民文化課	4名
9月13日	視察受入	栃木県教育委員会	4名
9月26日	視察研修受入	千葉大学木下研究室	13名

県民文化課からの　インターン受入

Ⅱ.リーグ事業

リーグ事業①

中山間元気促進事業

目的	農地の荒廃や集落機能の低下が進行している中山間地域と、地域貢献やビジネスチャンス、フィールドワークへの関心が高まる企業が連携した地域づくりや協働活動等を支援し、企業と地域の結びつきを深めることで継続的な交流人口の増加と、地域の活性化を図る。	内容	○高瀬地区集落営農組合×㈱大岩建設 ・令和元年4月19日　こいのぼり掲揚作業 ・令和2年3月16日ホタル生育環境整備および看板設置 ○栃木県中山間地域活性化推進協議会×とちぎコープ生活協同組合 ・令和元年11月24日とちぎコープイベントにてブース出展 ○とちぎ夢大地応援団への参加 ・鹿沼市×栃木明治牛乳㈱、塩谷町×栃木明治牛乳㈱ ・塩谷町×㈱カルビー ○足利・名草ふるさと自然塾運営協議会×とちぎコープ生活協同組合足利センター ・令和元年9月6～8日地域イベント準備、当日ブース出展 ○足利市×イオンリテール株式会社 ・令和元年6月イオンモール小山店パネル展示よび出展 ③連携活動のふりかえり　3組 5．協定の締結 ・令和2年2月14日高瀬地区集落営農組合×㈱大岩建設 ・意向確認　2組
内容	1．農山村地域の情報発信及びニーズ把握 ・令和2年2月7日報告会、カルテ作成・更新計17か所 2．企業の情報収集及びニーズ把握 ・令和元年9月事業計画送付289件、・カルテ更新38社 3．企業と農山村のマッチング ・相談会(地方開催)は台風19号及びコロナのため中止 ・令和元年12月19日　トランセンス（株）×茂木町 ・令和2年2月7日　とちぎコープ生活協同組合×12市町 4．企業と農山村地域の連携活動の支援 ①連携活動に向けた連絡調整 ・令和元年12月～3月　茂木町×トランセンス（株）　受入作業の年間カレンダー作成 ②連携活動の実践		
成果	・2年間にわたる連携活動実施の末、協定締結に至るケースが創出できた。 ・企業と地域が直接対話する相談会では、連携活動を具体的に模索することができた。 ・企業側から積極的に地域にアプローチする事例が複数見られた。	課題	・地域側の意識醸成等の働きかけがより重要である。 ・具体的に連携活動に進めるためには、市町や農業振興事務所などのサポートがポイントとなる。 ・協定締結には、連携活動の伴走支援を行いながら、意向を確認しつつ、無理のない内容の協定書を作成する。 ・行政への広報協力要請の期待大。

中山間元気促進事業

＜連携活動の実践＞

高瀬地区集落営農組合×㈱大岩建設

足利・名草ふるさと自然塾運営協議会×
とちぎコープ生活協同組合足利センター

鹿沼市×栃木明治牛乳㈱

＜協定の締結＞

高瀬地区集落営農組合×㈱大岩建設
協定締結式

＜連携活動に向けた連絡調整＞

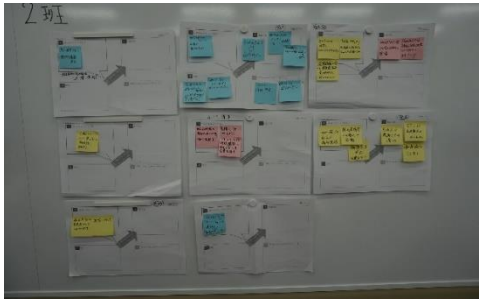
茂木町×トランセンス（株）年間カレンダー

リーグ事業② グリーン・ツーリズム組織づくり事業

目的	多様化するニーズに対応可能なグリーン・ツーリズム実践組織の創出を目指し、個々の活動の強化及び栃木県グリーン・ツーリズムネットワーク会員相互の連携による地域全体としての受入態勢強化を図る。	内容	会場：栃木県総合文化センター　第1会議室 出席者：49 名（事務局12名） 内容： (1)事例発表会 テーマ「グリーン・ツーリズムを通じた地域づくりのポイント」 講師：東和地域グリーン・ツーリズム推進協議会　会長　武藤一夫氏 (2)意見交換会 ・第1部事例の意見交換(グループワーク) ・自分たちの活動の振り返り（個人ワーク） ・「これならできる！今すぐできる！」（個人ワーク） ・ポスターセッションによる発表 4．マッチング相談会 日時：令和2年2月4日（火）13：30～16：00 会場：栃木県庁北別館4階 会議室402 出席者：旅行会社5社10 名、地域組織19団体28 名、農業振興事務所3名、事務局10名 内容：「旅行会社とグリーン・ツーリズム実践者のマッチング相談会」
内容	1．ネットワーク会員名簿の整理 内容：ネットワーク会員へ登録内容確認書を送付し、登録内容の確認及び更新を確認する。 期間：令和元年9月12日から令和2年3月24日 目的：グリーン・ツーリズムの取組の効果や地域における合意形成、連携の手法などをまとめ、グリーン・ツーリズムの推進を図る上での啓発資料とする。 確認方法：郵送、メール、電話、FAX 会員数：令和2年3月24日現在　231件（17件退会） 2．手引書作成（40ページ、500部） 対象：グリーン・ツーリズム実践初心者、市町担当者 掲載内容：概念、国の動き、コーディネーターの役割、栃木県内の優良取組事例、関係法令等 3．取組事例発表会・意見交換会 日時：令和元年12月18日(水) 14:00～16:30		
成果	・長年手つかずであった会員の整理ができた。 ・取組事例発表会・意見交換会では自らの気づきを行動に変えるヒントを持ちかえっていただけた。 ・マッチング相談会は95.8%が満足、商談成立や継続案件が多く得られた。	課題	・取組事例発表会・意見交換会の内容と時間のバランス ・マッチング相談会における組み合わせの難しさ、商談時間の不足 ・マッチング相談会後のフォローアップ体制

リーグ事業② グリーン・ツーリズム組織づくり事業

＜取組事例発表会・意見交換会＞



＜マッチング相談会＞

リーグ事業③　リーグのあり方検討について（含ぽ・ぽ・らプロポーザル）

目的	NPO法人とちぎ協働デザインリーグのミッションを確認するとともに、現状及び課題と具体的解決策の検討、活動計画の作成を目的とする。併せて、とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」のプロポーザル期間満了に向けて、次期プロポーザル提案の検討・作成を行う。	内容	○リーグのあり方検討会・プロポーザル作業チームでの協議 ・検討経緯は次頁一覧表のとおり。 ・リーグのミッション・あり方等について協議を重ねるとともに、ぽ・ぽ・ら業務委託の公募プロポーザル企画提案について協議を重ね、企画提案書をまとめ、公募に参加した結果、リーグが第1位の委託候補者として選定された。
実施概要	①リーグのあり方検討会の設置及び運営 ・担当理事：三橋理事長、結城副理事長、西田副理事長（座長）、廣瀬常任理事、赤羽理事、岩井理事、塚本理事、林理事 ・スタッフ：小針、黒田、町田 ②プロポーザル作業チームの設置及び運営 ・担当理事：西田副理事長、赤羽理事（リーダー） ・スタッフ：小針、黒田、町田		
成果	・リーグのあり方検討においては、積極的な意見交換が行われ、ミッション等について貴重な提言があった。 ・作業チームを中心に、ぽ・ぽ・ら業務委託の公募プロポーザル企画提案をまとめ、公募に参加した結果、リーグが第1位の委託候補者として選定された。 ・ぽ・ぽ・らの2020～2022年度事業計画を策定した。	課題	・年度後半から、ぽ・ぽ・ら業務委託の企画提案業務に検討を要したため、リーグ中期計画のまとめまでには至らなかった。

リーグ事業③　リーグのあり方検討について（含ぽ・ぽ・らプロポーザル）

■　検討の経緯

年月日	会議名	内　容
R元/ 4/23(火)	常任理事会①	あり方検討の進め方等
5/28(火)	あり方検討会①	検討会の設置、今後の進め方、ミッション、プロポ検討
6/18(火)	作業チーム①	ミッション、プロポ検討
6/21(金)	理事会①・総会	あり方検討の進捗報告
7/11(木)	作業チーム②	検討の進め方、プロポ提案におけるリーグ活動の主軸
7/30(火)	あり方検討会②	作業チーム進捗報告、ミッション、課題解決策検討
8/27(火)	常任理事会②	
8/27(火)	作業チーム③	解決策まとめ、プロポ案検討
9/24(火)	あり方検討会③	常任理事会結果報告、作業チーム進捗報告、プロポ案検討
10/15(火)	作業チーム④（拡大）	プロポ案の検討
10/26（土）	第2回理事会	あり方検討の進捗報告
11/14(木)	作業チーム⑤	プロポ案（具体的事業）検討
11/26(火)	作業チーム⑥（拡大）	プロポ案（具体的事業）検討
R2/ 1/ 7(火)	作業チーム⑦	公募要領等の確認、プロポ内容検討
1/14 (火)	作業チーム⑧	現地説明会結果報告、質問書及び回答、プロポ企画提案検討
1/21 (火)	作業チーム⑨	参加表明書の提出、執行体制、プロポ企画提案検討
1/29(水)	常任理事会（拡大）	参加資格確認結果、プロポ企画提案書案の決定

リーグ事業④　地域コミュニティ再生促進事業

評価	A

コミュニティセミナーの実施

目的	近年、各コミュニティにおいては、後継者不足等の問題が深刻化してきている。そこで、千葉県千葉市朝日ケ丘地区における「みんなの学校」の取組事例をまじえて、地域のまちづくり、人事育成等について、専門家による講義を行う。 講義後は参加者間の情報交換・交流を行い、各コミュニティ活動に活かしてもらう。	内容	(1) コミュニティに関する講義 ・講師は、地元自治会役員も務め、2019年5月から、まちづくりについて学び、考え、語り合い、活動を起こす「みんなの学校」の活動に取り組んでおり、実践から得られた成果や課題、提言が示された。 ・まちづくり連続講座として、6回のワークショップを中心に活動し、「みんなの庭」を造成した。(3年間の補助事業終了後の自立的な活動を検討。) ・地区全体に伝えることの難しさ。まちづくりに必要なのはプラットフォームとコーディネーター。それぞれの地域に合った柔軟な仕組みを提案いただいた。 (2)意見交換・交流、30秒メッセージ (3)まとめ
実施概要	○事業名：ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾐﾅｰ「みんなでつくろうみんなの街」 ・日時：令和2年2月7日(金)13:30～15:45 ・会場：ぽ・ぽ・ら3階　研修室A ・講師：ﾘｰｸﾞ理事/作新学院大学名誉教授　橋立達夫氏 ・参加者：16名		
成果	・参加者のアンケート結果は、概ね良好であった。 ・講義内容は、参加者のコミュニティ活動に大変参考になったものと思われ、活動の活性化につながることが期待される。 ・「みんなの学校」の取組は、講師等のリーダーシップにより積極的に進められ、共感の輪は広がってきているが、参加者が自ら動くまでには至っていないようであり、意識の向上を行動に移すように仕向けることに努力されている。	課題	・今回のセミナー参加者は、「自治会活動に入っていけない」という者から「目標とする活動の情報交換をしたい」という者まで幅広く、1回のセミナーでは伝えきれないと感じた。 ・地域の将来を考える体制が弱まってきており、今後、ワークショップや連続講座などの企画も検討してみたい。

リーグ事業④　地域コミュニティ再生促進事業

橋立理事による講義「みんなでつくろうみんなのまち」

意見交換・交流～参加者から感想や活動報告等～